

令和2年度 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業

研究協議会



「わかる・できる」協働的な授業の創造



熊本県 産山村立産山学園

地域の特色

阿蘇・産山村（熊本県北東部）

- ・主産業 農畜産業
- ・人口1500人の自然豊かな山村



〈名水100選 山吹水源〉



〈村花 ヒゴタイ〉



〈村マスコット
キャラクター〉

産山村の教育

教育理念

「産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造」

- ・昭和63年 タイ・カセサート校とのヒゴタイ交流開始
- ・平成19年 小中一貫教育スタート 教育特区認定
- ・平成21年 教育課程特例校指定
- ・平成30年 義務教育学校「産山学園」開校

教育に期待する思いが強く、学校教育への尽力は大きい

学園の特色

学園生数 (令和2年度1月現在)

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
男子	7	6	4	12	5	7	7	8	8	64
女子	3	7	4	4	4	7	8	3	5	45
計	10	13	8	16	9	14	15	11	13	109

4-3-2のステージ制

- ・1～4年生 ファーストステージ
- ・5～7年生 セカンドステージ
- ・8・9年生 サードステージ



学園の特色

特例の教育課程

うぶやま学



〈4～7年：ヘルパー活動〉

英会話



〈全学年：ヒゴタイ交流の英会話〉

チャレンジ学習



〈3～9年：チャレンジ検定〉



〈9年：子ども議会〉



〈後期生：ヒゴタイ太鼓（地域指導者）〉



〈全学年：ICT機器の活用〉

学園生の実態

- ・学園生の人数に対して、学校でも、地域や家庭でも関わる大人の数が多い。
- ・一人1台のタブレット端末
- ・漢字検定・数学検定・英語検定の受験費用全額補助



- ・全体的に「主体性」「創造性」を伸ばしたい。
- ・「課題解決力」を高めなければならない。

主題設定の理由

「わかる・できる」協働的な授業の創造

- 1 教育の動向から
新学習指導要領
 - 主体的・対話的で深い学び ○協働的な学び
 - 資質・能力の育成
- 2 本村の取組から
 - 校訓「We have a dream(私たちには夢がある)」
 - 産山で教育を受けてよかった
 - 特色ある教育
- 3 学園生の実態から
 - ◎恵まれた教育環境
 - 主体性、創造性を伸ばしたい

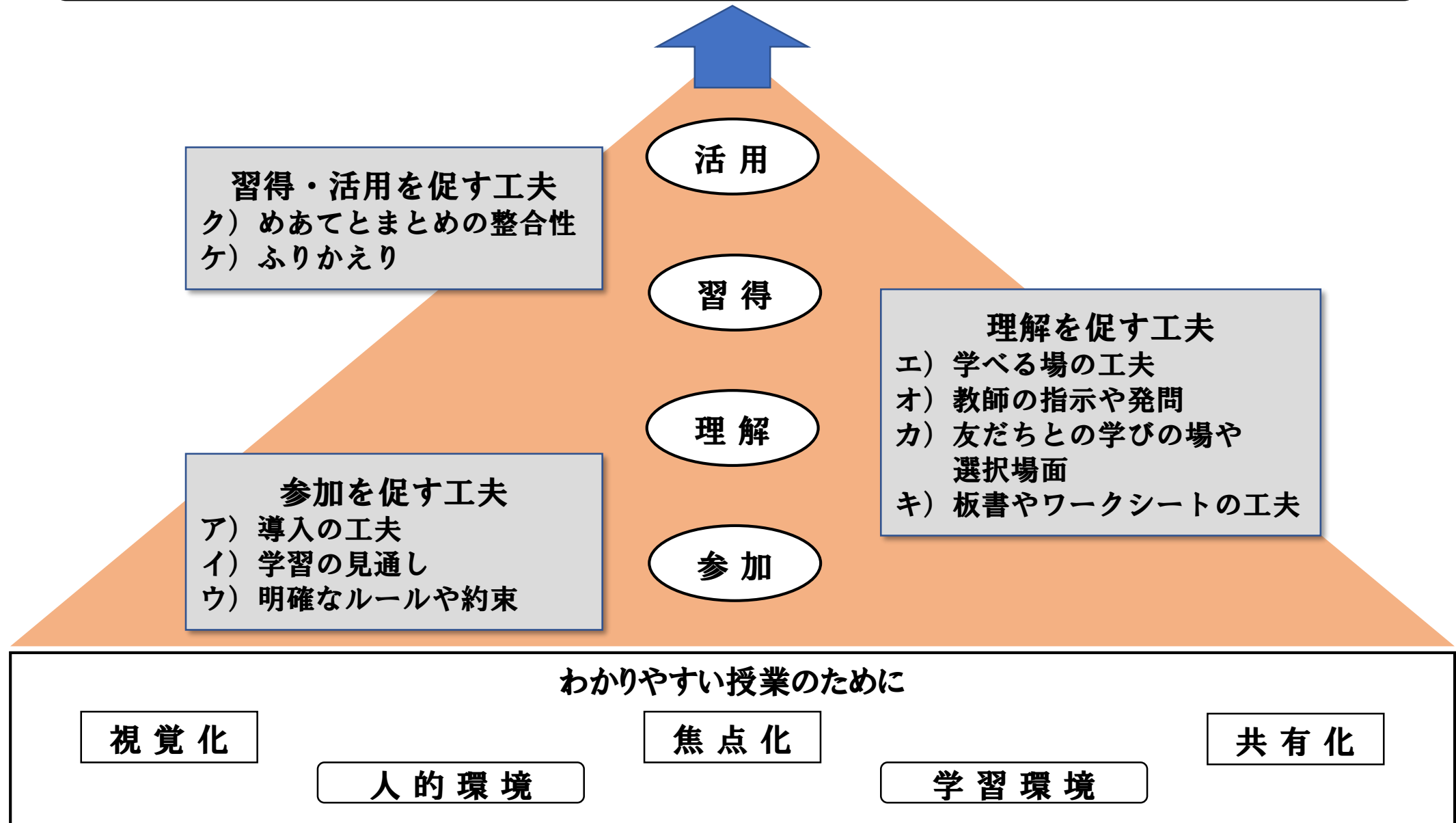
1 年次 の 実践

(令和元年度)

研究主題 「わかる・できる」協働的な授業の創造

＜仮説＞ 授業のユニバーサルデザイン（UD）に取り組み、以下の視点による授業改善を行うことで、
学園生が「わかる・できる」授業になるだろう。

研究構想図



成果と課題（１年次）

成果

- ① 1時間の学習の流れを示して見通しをもたせ、協働的な場づくりを行ったことで授業改善ができた。
- ② 教職員の教材研究・支援の改善が学園生の変化につながった。

課題

- ① 単元を通した「参加」「理解」「習得・活用」の授業デザイン
- ② 協働的な授業が「教え合い」に留まっている。

2年次の実践に向けて

<研究仮説>

単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い、高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

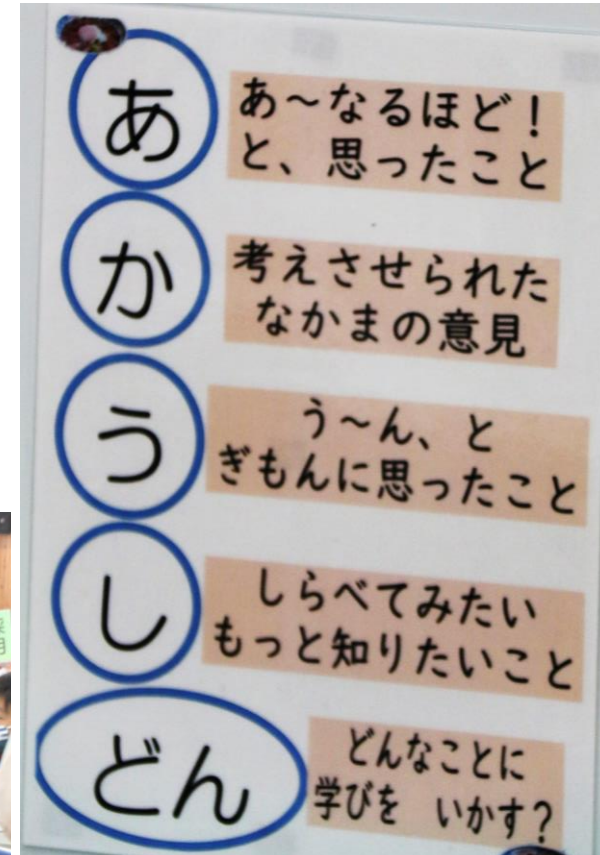
うぶ山のおいしいもののひみつをさがろう
☆学しゅう計画☆

ゴール まちたんけんで見つけた
おいしいもののひみつを
どうがにとってしょうかいする。

1	けいかくを立てる。 ながはまさんのお話を聞く。	
2	まちたんけんに行く。	
3	「おいしさのひみつ」をさぐる。 ①名人をさぐる。②名人のすゝめとる③しつもんを考える。	
4	もう一度 まちたんけんに行く。	
5	どうがの じゅんぴを する。	
6	どうがの さつえいを する。	
7	学園生や やくばの人に どうが を はいしんする。	
8	学しゅうしたことを ふりかえ る。	

うぶやま村には おいしいものが いっぱい!
そのひみつって なんだろう?

○ めあての明確化
○ 学び合いの工夫
○ ふりかえり



2 年次 の 実践

(令和 2 年度)

＜研究主題＞
「わかる・できる」協働的な授業の創造

＜研究仮説＞
単元・授業のゴールの姿を明確にし、学び合い、高め合う学習活動を工夫すれば、「わかる・できる」授業になるだろう。

研究内容

単元・授業のゴールの姿の明確化

課題解決学習（産山型学習）

めあての明確化

学び合いの工夫

ふりかえり

単元最後のふりかえり

研究構想図

ICTの効果的な活用

授業のUD化

学校と地域との連携・協働

産山(へき地)ならではの質の高い教育をめざして

産 山 型 学 習

過程	児童生徒の視点から	授業者の視点から
う～ん 今日の 課題 は？	◎学習課題（めあて）をつかむ。 ・学習課題（めあて）を確かめて、やる気を出し、学習の見通しを立てる。 「なぜ」「おそらく」（疑問や予想）	◎めあての明確化 ・授業のゴールの姿の明確化 ・導入の工夫
ぶっ かって みよう ひとり で！	◎ひとり学び（個人思考）で課題解決に取り組み、自分の考えを持つ。 ・学習課題についてしっかりと考え、それを書くなどして自分の考えをもつ。 「やってみよう」（挑戦）	◎ひとり学びの工夫 ・自分の考えに対し、根拠を明確にさせる。 ・思考ツールの活用 ・ICTの効果的な活用 ・発問の工夫
やろう みんな で！	◎学び合って、学習課題（めあて）を解決する。 ・友達と話し合い、さらに考え、学習を深める。 ・先生の話をしっかり聞き、問題を解いたり深まった考えを書いたりしてまとめ、学習課題を解決する。 「なるほど」「きっと」（納得感）	◎学び合いの工夫 ・ペア、グループ、全体などの学習形態の工夫 ・視点をもたせた話し合い ・発表のルール（根拠）や学習リーダーの設定 ・ICTの効果的な活用
まとめ ふりか えろ う！	◎学習を振り返り、つなげる。 ・自分や友達のがんばりを振り返り、そのよさを認め、次時につなげる。 ・学習したことを振り返る。 「わかった」「できた」「もっとやってみよう」（実感や達成感、更なる意欲）	◎ふりかえり ・ふりかえりの視点をもたせる。 ・ふりかえりシートの活用 ・次の学習への意欲をもたせる評価の工夫

実践例① 8年社会科 単元について

単元終了時のゴールの姿

身近な阿蘇の草原が失われつつあるという社会的問題について関心をもち、その背景について諸資料を活用しながら分析および説明し、その成果をもとに、草原保全のあり方について自己の意見を形成・表現している姿。

問題の把握

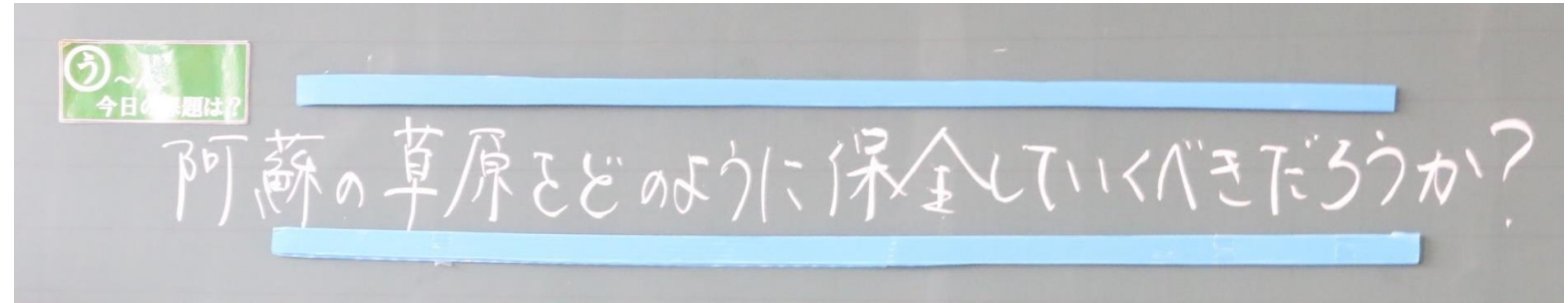
原因の追及

解決策の立案

実践例① 8年社会科 本時について

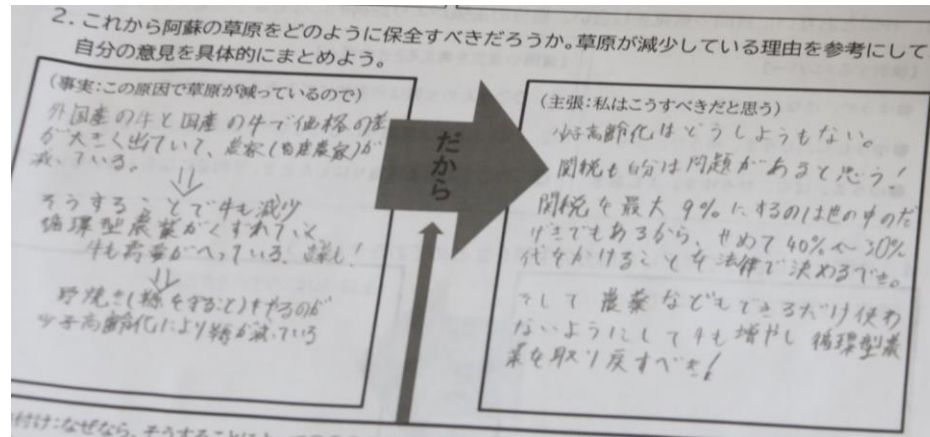
めあての明確化

阿蘇の草原をどのように
保全していくべきだろうか？



学び合いの工夫

自分の考えをワークシートに
整理させた上で
話し合いで多様な考えが
出されるように工夫



ふりかえり

学び合いで自分の考えが深まったことを中心
に自分の変容を記述して、発表させた。

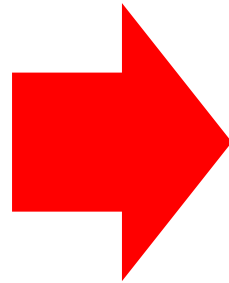


実践例① 8年社会科 子どもの変容について

【単元はじめの生徒の姿】

●社会科学習と自分の生活や生き方とのつながりを見いだすことがあまりできていなかった。

●「草原」について「野焼きがある」「牛がいる」などの常識的な記述はあるものの、「草原が減っている」という社会的事象について関心をもち、どうしてそれらが起こるのかといった原因・理由を分析し、望ましい社会のあり方について考えることができない生徒がほとんどだった。



【単元終了時の生徒の姿】

◎身近な阿蘇の草原の減少という地域の課題に関心をもち、その背景について分析した上で、自分なりの解決策を全ての生徒が考えることができていた。「楽しかった」「今までの社会の授業で一番頭を使った」と語っていた生徒もいた。

◎単元最後に、ゲストティーチャーにこれまで考えてきた解決策を発表したことで、学習してきたことが自分の生活とつながっていることに気付くことができた。

実践例② 4年うぶやま学 単元について

単元終了時のゴールの姿

「うぶやま茶」を通して、自分のやりたいことに気付き、そのためにやらなければならないことについて自ら学び考え、考えたことを表現することによって、その考えを広め、やりたいことを実現しようとする姿。

課題の設定

課題追究(体験)

提案を考える

提案を行う

実践例② 4年うぶやま学 本時について

めあての明確化

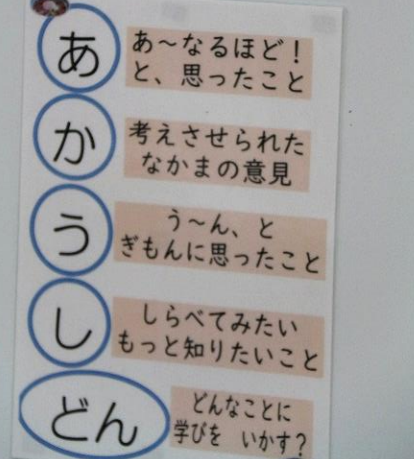
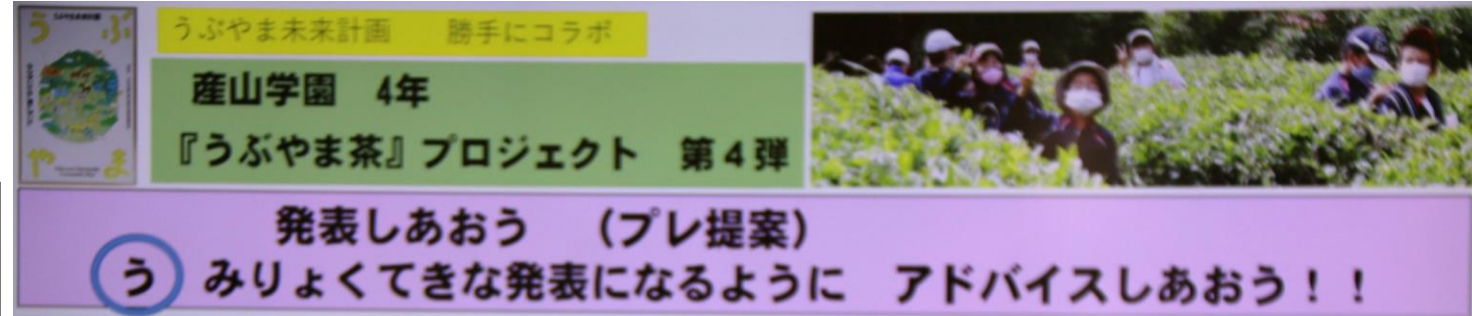
みりよくてきな発表になるように
アドバイスしあおう

学び合いの工夫

他者の発表を聞き、ふせんに
アドバイスを書いた上で自分の
考えを発表できるように工夫

ふりかえり

「あ」「か」「う」「し」「どん」の
視点で、学んだことや、次に学びたいこと
を整理できるようにした。

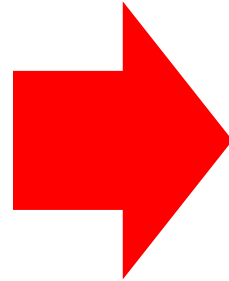


実践例② 4年うぶやま学 子どもの変容について

【単元はじめの生徒の姿】

●自分の思いや考えを話すことは全体的にできるが、自分の書きたいことや考えを明確に順序立てて文章に表すことは苦手としていた。

●これまでの「うぶやま学」で、自分が学習してきたことや体験したことを「こんな形でまとめた」という実感がなく、自分が伝えたいことの焦点化ができずにいた。



【単元終了時の生徒の姿】

◎茶摘み体験やお茶に関わる周りの方々の思いから、「お茶で何がしたいのか」という問いをもたせたことで、自分なりの考えをもつことができた。

◎ポスター形式にまとめたことで、自分が伝えたいことや相手に伝わる表現の工夫をアドバイスをもらいながら、さらに高めようとすることができた。

◎社会科で、多くの情報を整理して自分が伝えたいことをパンフレットにまとめていた。（学びを生かす姿）

成果（２年次）

全学園生（１～９年）アンケートから

（問）今の学年になって、とてもわかった！できた！と感じた授業はどんな授業でしたか。

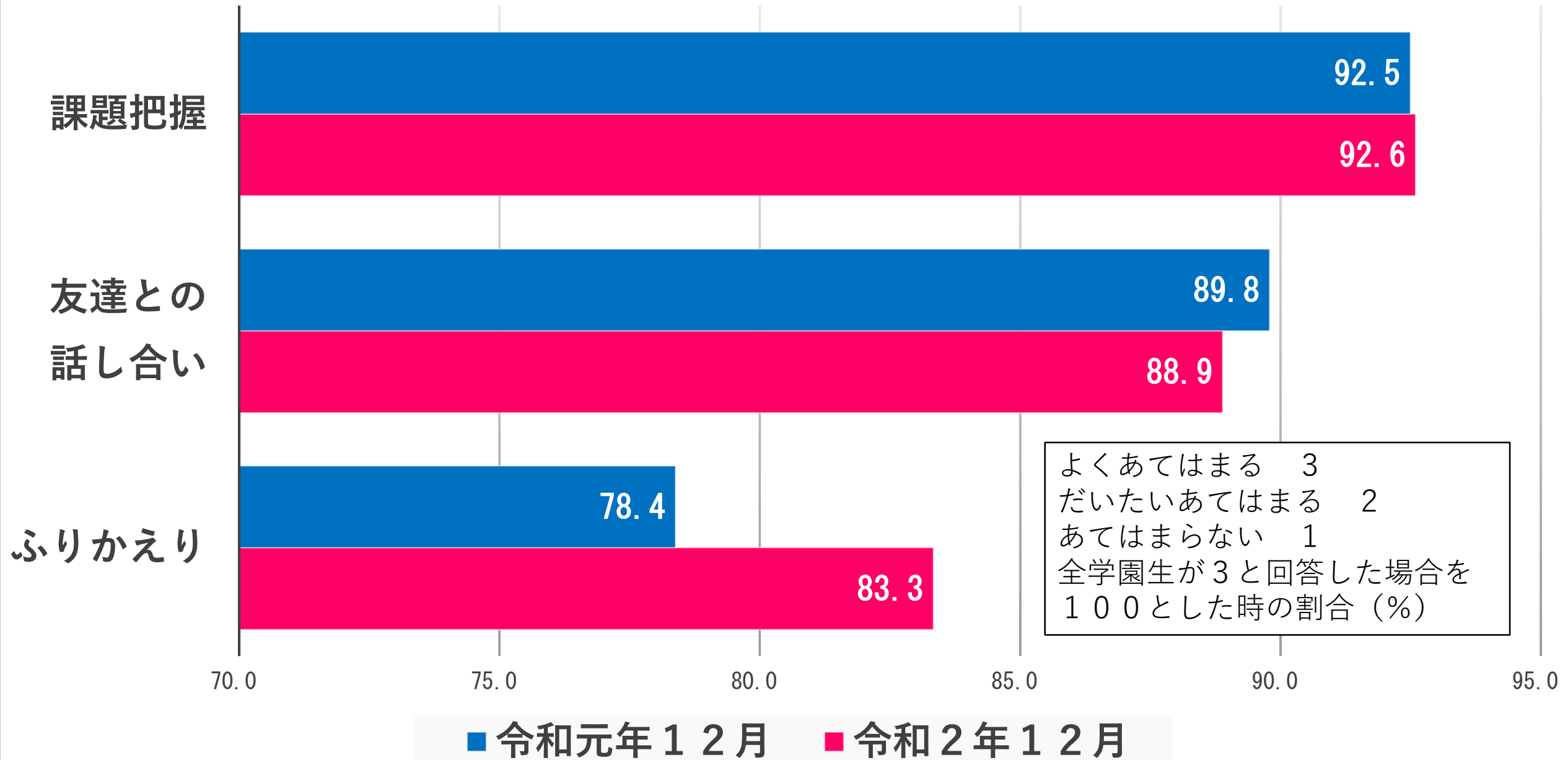
- （数学）「もみじの神秘」など単元課題に挑戦した授業が印象に残っています。身の回りのことに数学を活用するということで夢中になって取り組んでいました。（８年生）
- （数学）立体に見える横断歩道を、相似の知識を使って設計した授業です（９年生）
- （社会）第三次世界大戦を防ぐためにどうすればいいのかを、なぜ過去に戦争が起きたかをもとにしてレポートにする授業（９年生）

（問）授業で「わかった」「できた」と感じることは増えましたか？理由を教えてください。

- めあてを書いたときに、よし、これめざしてがんばろうと思いながら勉強をしている（１年生）
- ペアでかんがえたりしてなるほどと思うことがあったからです（２年生）
- ふりかえりなど自分でまとめたり、チャレンジノートでもう１回ふりかえり学習をやったから（４年生）
- 前よりふりかえりが書けるようになったことで、分かるようになりました（５年生）

成果（2年次）

全学園生（1～9年）アンケート



成果（２年次）

- ◎単元や授業のゴール（めざす姿）を明確にしたことで、学習に見通しをもち、粘り強く課題に取り組む子供の姿がみられるようになった。
- ◎各授業者ごとに、発問の工夫、思考ツールやＩＣＴの活用、発表のルール（根拠）や学習リーダーの設定など様々な創意工夫が見られ、「教え合い」が「協働的な学び」へと高まった。
- ◎ふりかえりの中で、子供が自分の伸びを感じたり、「さらにこんな学習をしたい」という意欲をもったりした。ゴールを見据えて授業を構想する教員が増えてきた。



「わかる・できる」協働的な授業の創造 及び 子供の主体性、創造性の高まり

- ◎「わかる・できる」協働的な授業づくりの実践を、各教科のみならず「うぶやま学」や「英会話」等の特例の教育課程にまで広げることができた。
- ◎「子供一人一人の姿をよく見取る」「特例の教育課程を更なる強みへと高める」「地域人材を活用する」ことで、へき地ならではの質の高い教育が展開できることがわかった。



へき地の強みを生かした質の高い教育の実現 及び 外部への情報発信

今後に向けて

【今後の方向性】

「産山で教育を受けてよかったと実感できる教育の創造」

◎へき地の強みを生かした研究の歩みを止めない

◎子供一人一人の姿をさらに深く見取る職員集団へ

◎授業実践などの日常的な情報交換

ご清聴ありがとうございました。



熊本県 産山村立産山学園